

集 会 ア ピ ー ル

私たちJR東海労名古屋地本は、本日、蒲郡市民会館において「不当解雇から2年！JR東海・愛知県警によるデッチ上げ蒲郡駅事件を許さない9・27集会」を開催した。

会社は2年前の今日、窃盗の事実もなく起訴されていないにもかかわらず、加藤誠二さんに懲戒解雇を通告した。まさに解雇そのものを目的とした弾圧であった。「会社の管理に関わる内部文書を窃取した」として解雇の理由にしているが、すべてがデッチ上げであり、そのような事実は一切ない。

2007年7月13日、窃盗事件とは担当が違う愛知県警公安三課が突如、マスコミを大量動員し本部・名古屋地本事務所、加藤さんの自宅など7カ所にも及ぶ家宅捜索を行った。まさに、会社と権力が一体となった弾圧であることは明確である。

私たちは、7月13日の家宅捜索、加藤さんへの就業制限、そして解雇通告に対して仲間の団結で闘ってきた。「指令3号」「11・4ストライキ」「裁判の傍聴券獲得」「街宣・ビラ配り行動」「外部要請行動」「公正・公平な裁判を求める署名」などの取り組みを団結力と絆を基礎に闘ってきた。しかし、組織の総力をあげて闘ってきた刑事・民事裁判において、不当判決が出された。この判決で裁判所もまた警察権力と一体であることがはっきりした。名古屋地裁は、証拠も無く、加藤さんの主張を一切聞き入れず、有罪判決を導き出すために、「推認」「蓋然性」という言葉で判決文をデッチ上げたのである。

私たちは、この間、社員管理の柱である主任レポートに反対し、職場からの闘いによって形骸化させてきた。「命令と服従」「規律と忠誠心」の社員管理に真っ向から反対し、あたり前の労働運動を行っているJR東海労が邪魔なのだ。

また、戦争に反対し、平和・人権・民主主義を守る闘いを展開しているJR総連・JR東海労を破壊しようとしているのである。

このようにJR東海と権力の目的が一致したのである。ゆえに蒲郡駅事件、JR浦和電車区事件をデッチ上げたのだ。私たちは会社と警察、司法の暴挙を許さない。あらためて、満腔の怒りをもって弾劾する！

私たちは9月27日を決して忘れない。怒りをあらたに加藤誠二さんを職場に取り戻すため闘いをさらに強化する。一審の不当判決を跳ね返し、控訴審を勝利し、完全無罪と早期職場復帰を目指し、すべての仲間と共に闘い抜こう！

2009年9月27日

「不当解雇から2年！JR東海・愛知県警による
デッチ上げ蒲郡駅事件を許さない9・27集会」